

水鏡

和田久恵

小さき椅子持つて墓前の小春かな
水澄むや人は山河に魅せられて
卯年あくいよよ八十路を生きるかな
寢室のシャッター上げて浴ぶ春光
堇の鉢越しゆく友の置き土産
亀鳴けり昔むかしの淡き恋
水鏡代田に映る山青し
夏めくや樹下に子犬と老婦人
炎帝の強気に民の疲弊かな

ひまわりや熱気をまとい大輪に
ワクチンを済ませ真青の天高し
春めきて纏う衣のうすみどり
ポートタワー眼下の湾の春霞
花菰の花は星形地を覆うて
風薫る施設を訪えば姉に笑み
のぞみ号黄砂の雲のかかる富士
昼下がり夏蝶ゆらり葉にひらり
大輪の紺の朝顔咲く隣家
堂堂たり三百年の松さやか
朗朗と響く独唱秋うらら
小春日や少人数の七回忌